

GCL NEWSLETTER

第0号 (2013.09)



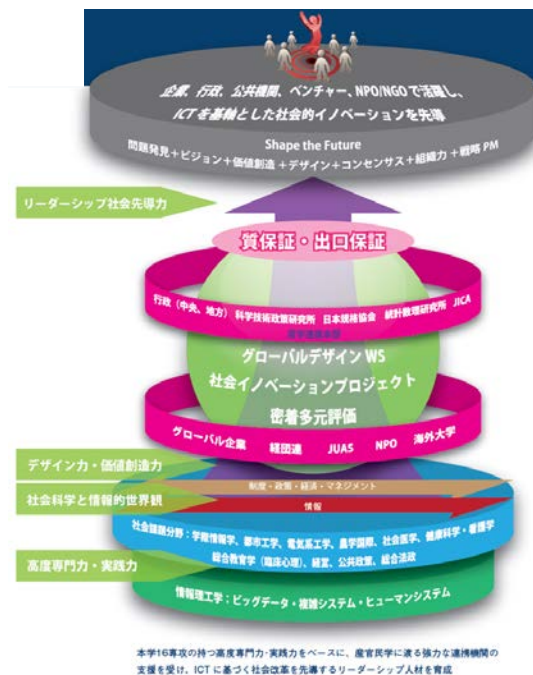
(上) 2月17日に行われた学生募集説明会の様子。(下) GCLの教育の概念図

■ GCL、本格稼働

今年4月に入学した修士課程1年生が初年度のコース生として参加し、東京大学ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム (GCL 育成プログラム) が本格的に稼働しました。5年間の一貫教育で、先端 ICT に基づいた社会的イノベーションにおけるリーダーを養成します。

GCL は 24 年度に「博士課程教育リーディングプログラム」の一つとして採択された、東京大学の 9 研究科 16 専攻による合同プロジェクトです。各専門の基礎力と実践力を強化した上で、全員が共通に「情報」と「社会」の素養を身に付けます。「グローバルデザインワークショップ (GDWS)」や「社会イノベーションプロジェクト実践」など、学生は企画・運営やプロジェクト計画に携わって実践的な経験を積み、また社会の第一線の人材と対等に討論することで、ICT に基づく社会改革を先導するリーダーシップ人材として養成されます。多様な能力と実績を見極める「密着多元評価」による評価を行い、博士号取得時には GCL の修了が付記されます。

GCL は産官民学の連携機関 20 以上の協力を受けています。東京大学の教員 50 人以上と連携先機関のトッ



プ人材 30 人以上からなる、89 人のプログラム担当者が参加しており、講義・ワークショップ等を通じて、指導教員以外にも指導を仰ぐことができます。

初年度のコース生の所属は、情報理工学系研究科、学際情報学府、工学系研究科、医学系研究科、農学生命科学研究科、教育学研究科、経済学研究科、公共政策大学院と多岐に渡っています。



(上) 会場の様子(撮影:山元さん)。(左下) ロボティクスエンジニアの松尾幾代さんがパワードスーツを紹介。(右下) ビービット代表取締役の遠藤直紀さんが、起業経験を通し、働くことの意味を語った。(左下・右下はTEDxTodaiチーム提供)



■ TEDxTODAI 参加報告

6月16日に伊藤謝恩ホールで開催された、「TEDxTodai」。GCLプログラムから参加したコース生の山元浩平さん(情報理工M1)に、参加報告をお願いしました。

参加報告

TEDxTodaiでは、コンペティションで選ばれた東大生を含め、AR、バイオマス、ジャズ、貧困問題、教育など様々な分野で活躍しているスピーカーが、それぞれの持つ新たな視点を提示してくれた。個別のプレゼンテーションは、今後YouTubeで公開されるそうなので、ここでは、TEDの理念「Ideas Worth Spreading」に基づき、TEDxTodaiで私が感じた価値を紹介したいと思う。

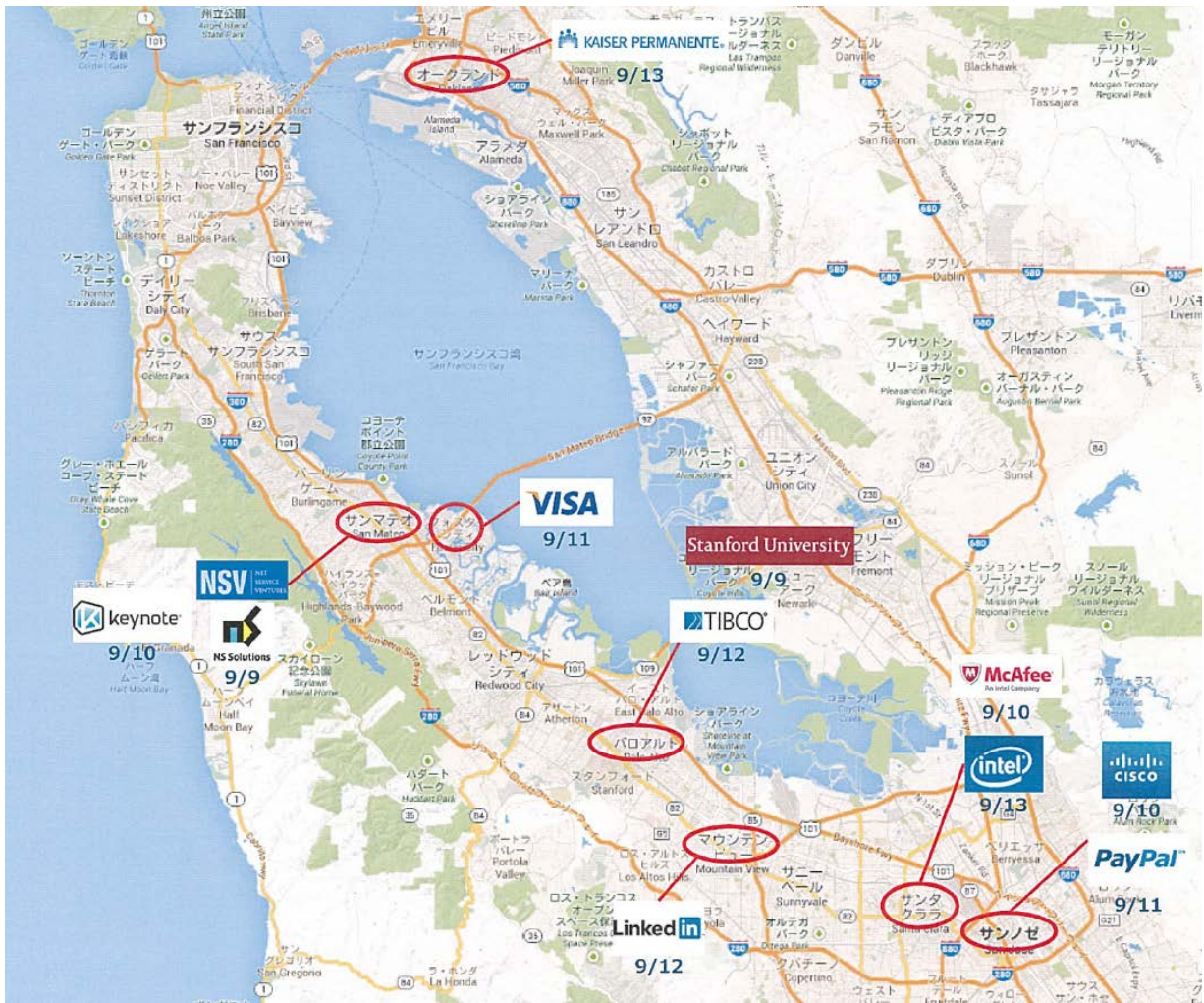
今回のイベントを通して感じたのは、社会で必要とされる個人の資質の変化だ。今までは、既成のシステムの中で成果を上げることが求められてきた。学校であれば試験で良い点を取り、会社であれば売上に貢献する。もちろん、それらを否定するつもりはないし、

それはそれで、重要なことに違いない。しかし、それだけでは解決できない問題が、今、社会には溢れている。高齢化は、教育は、政治は、震災復興は？

恐らく、今までも問題はあったのだろう。ただ、それを知る術がなかった。しかし、今私達は、世界中に溢れる問題を知り、解決するテクノロジーを得た。であれば、今の社会において必要なのは、自ら問題を見つけ出し、自らの手でそれを解決できる人材だろう。それは、このGCLプログラムの理念にも一致する。いくら技術があっても、それを実際に社会に役立てることが出来なければ、何の意味もないのだ。

そこに、学歴は関係ない。解決方法も、その解も無限大だ。実際の社会では、解が一意に定まる問題など存在しないからだ。つまり、正解を見つけ出すのではなく、自分なりに出した解を正解にしていくことが重要となってくる。

スピードと柔軟性、専門性を持って、社会の問題に解を示していく。私を含め、GCLのメンバー全員が、そんなプロフェッショナル集団になれるよう努力していきたい。



視察の行程。10 企業 1 大学を訪問する。

シリコンバレー視察へ

9月8日～16日、学生3人が「グローバルクリエイティブフォーラム2013視察団」に参加し、企業の社長・部長と帯同してシリコンバレーを視察します。

8月6日にプレオリエンテーションが開催され、視察団の顔合わせが行われました。

参加する3人のGCL学生（コース生2人、TA1人）に、視察への意気込みを聞かせてもらいました。

朱妍さん（学際情報学府M2）

世界先駆者であるアメリカ企業はいかに先進ICT技術と企業カルチャーを「価値づくり」に結んでグローバル展開するかについて調査して、その経験を日本企業に活用したい。特に研究開発を重んじる医療分野において、ビッグデータの活用が臨床・価格設定・研究開発にどのような影響を与えるかについて非常に興味を持っている。また、同行する企業の方々からもご刺激を頂けたらと思う。

山元浩平さん（情報理工M1）

ICT分野において、日本は米国に遅れを取っているとよく言われます。個別の技術・研究では、日本の方が優れているものも多くあるにも関わらず、なぜ、ビジネスにおいて、米国の後塵を拝することが多いのか。今回、このような素晴らしい機会をいただいたので、自分なりに解を見つけて帰ってきたいと思います。

田中義丸さん（情報理工M1）

今回、視察団に同行させていただくにあたり、シリコンバレーの名だたる企業を訪問し、ベンチャー時代の創業精神から現在の隆盛を支える経営思想などを学び、その刺激を持ち帰りたと思っています。また、経験豊富な同行の社会人の方々から厳しく指導を受け、自分の内側と外側の世界の繋がりについて深く考え、成長の糧としていきたいと思っています。

なお、参加する学生には後日、視察のレポートをお願いする予定です。

冬学期開講講義

平成 25 年度冬学期には、下記の講義が GCL 関連講義として開講予定です。詳細はシラバス等を確認し

てください。

このほか、GDWS やシンポジウムなども多数開かれます。GCL Newsletter でも、随時告知を行う予定です。

時限	クラス名	担当教員
月 6	GCL 講義 II (Introduction to Management)	朴英元
月 6	GCL 講義 III 情報システム論	萩谷昌己
火 1	GCL 講義 XXV	大橋靖雄
火 1	GCL 講義 XXIII メンタルヘルス・マネジメント応用	高橋美保、下山晴彦
火 2	Science, Technology and Policy	城山英明
火 6	GCL 事例研究 II 行政情報システムガバナンス	奥村裕一、城山英明、 坂井修一、座間敏如
火 6	グローバル・クリエイティブリーダー講義 VIII トップリーダー論	岩野和生、大力修
水 5	グローバル・クリエイティブリーダー講義 VI 企業に於ける IT 活用の成功・失敗事例	大和田尚孝
水 6	GCL 講義 I 技術利用と法	佐藤智晶
木 4	GCL 情報理工学特別講義 VII 実践的な知的財産権の基礎	貴志万里子、時田稔
木 6	グローバル・クリエイティブリーダー講義 IV リスクマネジメント	富家友道
金 3	情報理工学英語特別講義 I 新産業情報論	田中正躬、藤野仁三、大来洋一 藤澤浩道、池田 宏明
金 6	グローバル・クリエイティブリーダー講義 VII The 官僚	鈴木茂樹、松永明
集中	GCL 情報理工学特別講義 II	奥和田久美、牧野司

「GCL Newsletter」の題字デザインを募集します

- 応募資格：東京大学の学生であること
- 応募方法：縦 50mm、横 200mm を目安に題字デザインを作成し（号数と発行月のスペースを設けてください）、必要事項を明記の上、宛先まで送付してください。ファイルの拡張子は .pdf か .eps としてください。
- ・提出先：pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp
- ・必要事項：氏名、所属（学部・学科か研究科・専攻）、学年、連絡先メールアドレス、デザインの意図
- ・〆切：9/30 23:59 まで
- 備考：応募されたデザインが採用された場合、当該デザインを GCL プログラムが関わる発行物やウェブサイトで使用できる権利および使用のために改変する権利は、GCL 事務局に帰属するものとします。
- 問い合わせ：質問などは pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp までメールしてください。

編集・発行：

情報理工学系研究科・GCL 広報企画

（森友亮（情報理工学系研究科修士 2 年）、後藤昂彦（情報理工学系研究科修士 1 年）

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学工学部 8 号館 621 号室 GCL 事務局

E-mail：pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp